特集

公共交通の今を知り、考える

皆さんは、近頃公共交通を利用しましたか？小林市には、公共交通として複数のバスが走っていますが、十分に活用されていないのが実情です。今月号では、今後も必要となる公共交通の現状や役割などを特集します。

●問・企画政策課　TEL 23 - 0456

公共交通の現状

利用者数は徐々に減少 ピーク時の15分の1に

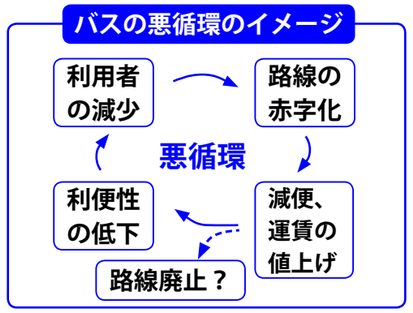
大正15年ごろ小林では、民間事業者により、乗合自動車（バス）が導入されました。宮崎・都城・鹿児島など各方面へ発展し、ピーク時のバスの年間利用者は300万人を超えました。しかし、昭和40年代後半の旅行ブームの後退や自家用車の普及により、バスの利用者は激減。路線廃止や減便につながりました。

現在小林市では、市外へ行く路線バス、市内を循環するコミュニティバスや福祉バスなどが運行中。利用者数は、年間19万人前後と低い水準で推移しています（表1）。

路線廃止や減便で利便性低下などの悪循環

バスの利用者が少ない路線は、その維持が困難となり、路線廃止や減便が検討されます。路線廃止や減便が行われると、利便性が低下し、さらに利用者が減少するといった〝悪循環〟に陥ってしまいます。

表1　路線バス・コミュニティバス
福祉バスなどの乗車人数



運行経費縮小のための利用者を増やす取組み

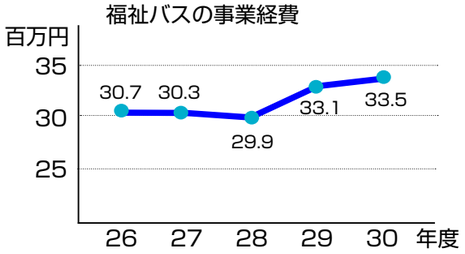
市では国・県の補助などを活用しながら、路線バスの運行経費の一部を負担しています。また、コミュニティバス・福祉バスの運行を委託するなど、交通手段の確保に努めています。

しかし、利用者数が伸び悩む一方で、車両維持費などの運行経費は年々増加。それにともない市の負担も増加傾向にあり、公共交通の維持は厳しい状況が続いています。（表2）

限られた財政状況の中で、公共交通全体を維持していくためには、乗車率の低い路線の廃止や減便の検討も必要となってきます。

安定的にバスを維持するためには、利用者の増加を促進し、少しでも赤字を縮小することが不可欠です。このため市では、バスの乗り方教室や運転免許証返納者への支援などを実施しています。関係機関と連携しながら、公共交通の存続を図ります。

表2　路線バス・コミュニティバス
福祉バスの事業経費



公共交通の役割

路線廃止になると、子どもや高齢者、障がい者など車を利用できない人々は、移動が制約され不便な生活を強いられます。

また、高齢ドライバーによる交通事故が社会問題となっており、高齢化社会では、今後運転免許証返納者の増加が見込まれます。

このように、自家用車を運転できない市民や観光客が安心して利用できる公共交通の果たす役割は大きくなっています。

地域住民の移動手段の確保

公共交通は、地域の移動手段のひとつとして、通学する生徒や通院・買い物をする高齢者などの日常生活を支えています。現在は公共交通を利用していない人にとっても、将来、自動車を運転できなくなったときなど、公共交通は重要な移動手段となります。

まちのにぎわい創出

公共交通があることで外出機会が増加し、買い物や地域活動などで多くの人たちがまちに集まれば、地域ににぎわいが創出されます。また、公共交通による移動が促進されることで、歩いて暮らせるまちづくりが図られ健康増進につながります。

環境負荷の軽減

世界的に問題となっている地球温暖化の観点から、自動車が排出するCO２（二酸化炭素）の削減は大きな課題となっています。一人あたりの輸送におけるCO2排出量が自家用車に比べて少ない公共交通を利用することで、地球温暖化防止に大きな効果が期待されます。

INTERVIEW

バスの運転士に聴く
安全運転で乗客を目的地まで運びます

宮崎交通　運転士
立山（たてやま） 千鶴（ちづる） さん

以前はトラックの運転手でしたが、バスの女性運転士を見かけたことがきっかけで、今年の4月から宮崎交通のバス運転士になりました。

予定通りに運行できるように常に安全確認を行っています。また、人の命を乗せて走っているという気持ちで運転しているので、車内の乗客などにも気を配るようにしています。乗客から「ありがとう」や「がんばってね」と声をかけられると、うれしいしやりがいを感じますね。

「バスが無くなると困る。バスを存続させるために、バスを利用するようにしている」というバス利用者の話を聞いたことがあります。公共交通は地域に必要なんだと実感。さらに経験を積んで、これからも乗客を安全に目的地まで運びます。

利用者に聴く
高校通学のためバスを利用しています

小林高校　2年
早川（はやかわ） 愛華（まなか） さん

高校に通学するためバスを利用しています。朝の便は高校生でいっぱいです。中には、勉強している人も。いつも乗っている帰りの便を逃すと、次の便まで1時間以上待つことになります。困ることもありますが、バスがあるからこそ安心して通学できています。

県の担当者に聴く
鉄道や路線バスを将来世代に残すために

宮崎県総合政策部
総合交通課 主幹
地域交通担当
熱田（あつた） 聡（あきら）

鉄道やバスといった地域公共交通は、大切な社会基盤のひとつです。しかし、自家用車中心の移動スタイルの定着や少子化、人口減少といった要因により利用者は減少傾向にあります。

大雨による災害で運休したJR吉都線は、沿線地域の高校への通学に大きな影響を及ぼしました。また、小林市内から宮崎市などの市外を結ぶ路線バスも、自家用車を利用できない人にとっては大切な交通手段となっています。最近では、高齢者の運転免許証返納後の移動手段の確保が問題となっています。地域公共交通はその移動手段として、さらに重要性が高まっています。

現在、鉄道や路線バスは交通事業者が運営していますが、このまま利用者の減少が続くと、将来的には路線の維持が難しくなることが予想されます。鉄道も路線バスも、現に利用している人たちや将来必要となる人がいます。

そうした人たちのためにも、小林市に住んでいる皆さんが月に1回でも鉄道やバスを利用するようになれば、路線の維持に向けてとても大きな意味を持つと思います。

TOPIC ①

低料金で乗車可能です

小林・須木地区を走るコミュニティバスは、三松循環線を除き200円で乗車できます。また、コミュニティバスと福祉バスで、身体障がい者手帳などの所有者は100円など低料金で利用できます。詳しくは、市ホームページで確認ください。

フリー乗降区間があります

コミュニティバスや福祉バスで設定しているフリー乗降区間は、バス停以外の場所で乗降車できます。フリー乗降区間で乗車する際は手を挙げて、降車する際は運転士にお知らせください。詳しくは、右QRコードから確認ください。

TOPIC ②

乗合タクシーを利用ください

毎週月曜・水曜・木曜に運行している乗合タクシー。細野団地・十日町・城山団地・小林駅南口の各停留所で乗降できます。1日3便、1回200円（小学生100円）で乗車できますので、買い物や通院などに利用ください。

企画政策課
大竹（おおたけ） 聡（さとし）

INTERVIEW

私たちに必要な公共交通
年1回の利用で存続可能な公共交通

小林市
地域公共交通会議 会長
総合政策部 部長
峯田（みねた） 勝巳（かつみ）

皆さんは最近、バスや鉄道に乗りましたか？自家用車の利用者は、「自分には関係のないことだ」と感じていると思います。

バスをはじめとする公共交通は、子どもや高齢者などの移動手段として必要不可欠なものになっています。また、自動車を運転する人にとっても、病気や運転免許証の返納などで運転ができなくなった場合の代替の移動手段のひとつになることも。さらに、地球温暖化の原因の一つとされる、自動車からのCO2排出削減など環境問題への対策としても、公共交通の利用促進が重要視されています。

しかし、自動車の普及などで、バスの利用者数は全国的に減少傾向にあります。利用者が減少すると既存路線の維持が難しくなります。そこで市では、利用者のニーズに合わせて路線の見直しや、車両の更新を行うなどの対応を行っています。

市では公共交通の維持を図るため、年間約6千万円の予算を使っています。市民の皆さん、公共交通をこれからも存続させるために、年に1度はバスや吉都線を使ってみませんか。バスや列車にゆられながら、いつもと違う風景を楽しむことができますよ。